

STAGE+を楽しむ(199)(HP 収載)  
—ネルソンスのブルックナー交響曲 7 番—

1. 始めに

前報(198)に引き続き、STAGE+のネルソンス指揮ゲヴァントハウスのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のネルソンス指揮ゲヴァントハウスのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏を選びました。

ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管創立 275 周年記念演奏会のブルックナー「第 7」

ネルソンス指揮

収録日: 2018 年 3 月 11 日

ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団は、2018 年に創立 275 周年を迎えました。その機会に、直前に首席指揮者に就任したアンドリス・ネルソンスが、記念演奏会を指揮。ブルックナーの交響曲第 7 番を演奏しました。ネルソンスは、その後このオーケストラとブルックナーの交響曲全集を録音しましたが、これはその幕開けとなりました。極めて精度の高い、純粋な響きを示す演奏で、彼のブルックナーとの相性を証明しています。

演奏:

ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団

指揮:

アンドリス・ネルソンス

曲目:

アントン・ブルックナー 交響曲第 7 番ホ長調



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

本年はブルックナー生誕 200 年ということで、演奏会やアーカイブの公開が続いています。

今回は、そのようなアーカイブからネルソンス指揮ゲヴァントハウスのブルックナーの交響曲第 7 番を試聴します。

この演奏は、STAGE+の日本公開が始まって間もない頃に試聴し、[STAGE+を楽しむ\(8\)](#)で報告しています。この報告後、LAN アキュライザーその他配信音源再生に関する種々の対策を行っていますので、それらの効果を確認します。

今回は、前回の試聴から種々の対策を実施しており、収録が 2018 年と新しいこともあって、繊細で細かい表現が出るようになっています。ネルソンス指揮ゲヴァントハウスは 2019 年の来日公演を聴いていて、曲は違いますが、ネルソンスの手堅い指揮の下、演奏会のゲヴァントハウスのオーソドックスな演奏スタイルの雰囲気を感じていただけます。



#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、収録が 2018 年と新しいこともあって、前回の試聴から繊細で細かい表現が出るようになっていきます。

以上